

土踊（稚児踊，二才踊）

【所在地】南さつま市加世田武田 17932 竹田神社（土踊保存会）

【種別】県指定無形民俗文化財

【指定年月日】昭和 36 年 12 月 20 日



土踊は戦国時代の武将島津忠良が出陣の前に、部下を集めて踊らせたのに始まると伝えられている。

この踊りは二才踊と稚児踊に分けられる。前者は地元の青壮年が主体となり、後者は加世田小学校4年生以上の児童によって毎年、新暦7月23日（昔は旧暦6月23日）の竹田神社大祭で踊られる。

踊りの日は二才組は加世田中学校で、稚児組は本町公民館で着付けをし、ほぼ同じ時刻に神社へ行列を組んで向かう。

二才踊は 裃 に帯刀，白足袋の先払い6名とそのあとにウタアゲ，つづいて踊り手が鳥居の下に並ぶ。稚児組のシメデコを合図に境内で円陣をつくり踊りが始まる。歌は古い謡の歌謡で難解なところが多く，踊り方も密集隊形で全員八列となり，ウタアゲに合わせて全員で歌いながら左右より入り交じって勇壮に踊る。

稚児組は二才踊を行っている間，鳥居のところに待機しているが，二才踊がすむと交代して境内に乗り込む。先導役の鎧武者のあと，短い八徳（陣羽織）をつけて白い小さな三角形のすね当てをした打切，太鼓をもった郷土，稚児の順で踊りというより静かに左へ丸く回るだけである。その後の歌の上旬は稚児が，そのあとウタアゲが稚児の歌ったものを1人で歌い，続いて大人が全部でというように8番まで歌う。歌の終わりには必ず太鼓を鳴らす。服装・楽ともに念仏踊りの特色がよく出ている。